



## チャイナタウン in テキサス

北陸銀行

ニューヨーク駐在員事務所

秘書 内間 洋子

近年、中国の富裕層の人々は、効果的な資産運用のため国外の不動産関連事業への投資に力を入れています。ここアメリカでは、将来子供達にアメリカで教育を受けさせるため、移住を念頭においた人々による家族用住宅の購入が永住権取得と同時進行しており、注目を集めています。

ニューヨークタイムズ紙によると、1990年に施行された、アメリカの新事業に6,000万円以上を投資した外国人に永住権を与える連邦政府のプログラムEB-5は、ここ数年申請者が急増しており、特に2013年に永住権を所得した中国人は約7,000人にのぼります。また2012年には、中国からの出産ツアーで渡米した妊婦から生まれ、自動的にアメリカ永住権を得た中国人の赤ちゃんは1万人となっています。



子供達にきれいな空気とより良い教育環境を与えるため、これらの永住権を取得した親達は今、将来アメリカに留学する子供達や移住する自身のためのハウスハンティングを始めています。IT産業、金融、トップクラスの私立大学が集中するシリコンバレー、マンハッタン、ボストンなど西海岸と東海岸の大都市から始まったブームですが、今では内陸部にも広がっています。投資ではなく実際に暮らすことを目的とした中国人にとっては、数十億円もする大都会の高級高層アパートより、数億円の緑豊かな郊外にある一戸建て高級住宅の方が、購入手続きも簡単に済むので人気があります。特にカリフォルニア、ミシガン、テキサスの3州には全米トップ3の州立大学があり、州民であれば入学に有利で、年間学費も私立大学の半額ほど（約250万円）で最高の教育が受けられます。

上の写真は、ダラスの北西にある街コリンズです。北京に本社がある土地開発業者Lelege USA Corporation が2年前に8億円余りで購入した土地の、建設中の分譲住宅の完成予想図です。99軒の平均価格は2億円で、住人は中国本土からの人々だけを想定しています。

中国の高級食材を販売するスーパー、隣州オクラホマで生産されたワインの直送販売店、娯楽施設等も完備され、文字通りチャイナタウンとなるとのことで多くのメディアで話題となっています。住宅のデザインは、清華大学建築学院によるヨーロッパスタイルです。現在、この他にも同じようなプロジェクトが各地で進行しています。



これらの親達は子供達の進学希望大学周辺にも寮代わりの家を購入するそうで、昨年度中国人がアメリカの不動産に費やした額は、3兆4,300億円を超え2年前の2倍となっているそうです。彼らの固定資産税、消費などによる地域社会への経済効果は莫大で、また国際的な視野を持った優秀な人材が多いため新規事業にも繋がり、地元住民にも歓迎されているそうです。

アメリカの不動産会社も、風水学まで盛り込んだプロモーションビデオを制作し、売り込みに力を入れています。また、この春アメリカン航空は、増え続ける中国人旅行者に対応し、ダラスー上海間に続く第二弾として、ダラスー北京間の直航便を就航しました。

20世紀初頭に形成されたチャイナタウンは、中国本土の困窮した状況からアメリカンドリームを求めて渡った人々によるものでしたが、21世紀のチャイナタウンは、本土で成功を収めた人々が子孫にさらなる繁栄の夢を託すドリームタウンともいえます。

#### 【参考記事】 ニューヨークタイムズ、その他

[http://www.nytimes.com/2015/11/29/business/international/chinese-cash-floods-us-real-estate-market.html?\\_r=0](http://www.nytimes.com/2015/11/29/business/international/chinese-cash-floods-us-real-estate-market.html?_r=0)

#### 【写真】

<http://www.lelegeusa.com/residential/long-lake/luxurious-homes/> (開発業者HP)

以上

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。  
記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださるようお願いいたします。

**ほくりく長城会**

**長城メール**

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局  
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F  
(株)人材情報センター内  
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565  
E-mail: info@chojo-hokugin.jp